

# がん検診のこれまでの取組と今後について

熊本市健康づくり推進課  
令和7年9月

# I 本市のがん予防について（R6年度実績より）

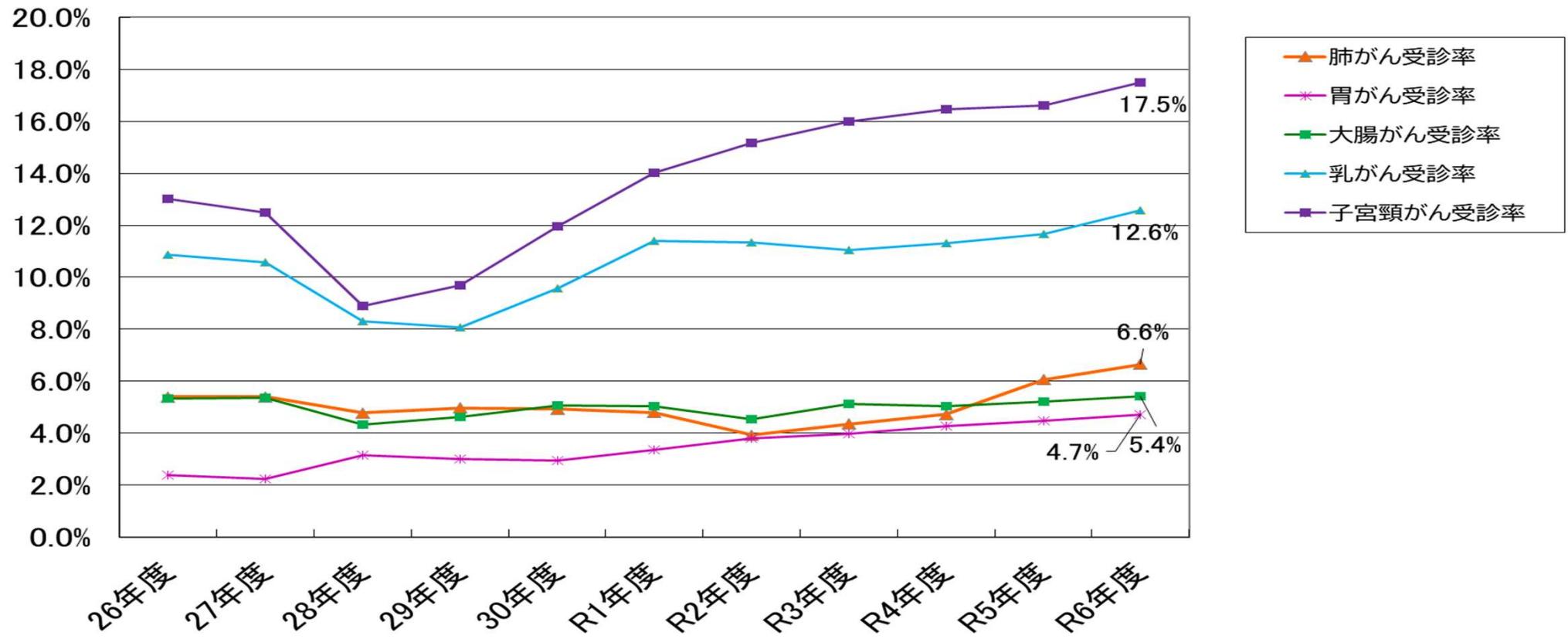
## 1 行政の主な取組

- 地域の会議や幼児健診等においてがんに関する知識の普及やがん検診受診を啓発。企業等の従事者を対象に口腔ケア及び生活習慣病等に関する啓発事業を実施。サロン等でCOPD・喫煙の啓発【各区保健こども課】
- 校区民児協定例会、8020推進員・食生活改善推進員の育成講座、校区単位の健康まちづくりの取り組みを通してがんの予防等に関する啓発を実施【各区保健こども課】
- 運動機会の充実のため、市民総参加型の熊本市民スポーツフェスタを開催【スポーツ振興課】
- すこやかくまもと栄養セミナー（食生活改善推進員養成講座）にて、がん発症を予防するための生活習慣を啓発。ホームページにて「がんを防ぐための新12か条」を周知【健康づくり推進課】

## 2 民間の主な取組

- がん検診の受診機会の喪失を防ぐべく、より効果的な受診勧奨を実施し、受診率向上を目指す【熊本市医師会】
- 節目検診、妊婦歯科健診などの折に口腔粘膜疾患を精査し、粘膜病変の早期発見に努める【熊本市歯科医師会】
- 加入者本人を対象に、特定健診にがん検診項目を加えた「生活習慣病予防健診」を実施  
【全国健康保険協会熊本支部】
- 事業場の産業保健スタッフ等を対象とした、生活習慣病の予防、禁煙の健康影響に関する研修会を実施  
【熊本産業保健総合支援センター】

# I 本市のがん検診について（現状）



- がん検診の受診率は、熊本地震により平成28年度に大幅に低下。
- 令和2年度の新型コロナの影響による低下も見られたが、個別受診勧奨等の取組により近年は横ばいまたは上昇傾向にある。
- 特に令和5年度以降、個別検診を開始した肺がん検診の受診率が向上している。

## II これまでの取組について

### 肺がん検診

#### これまでの取組

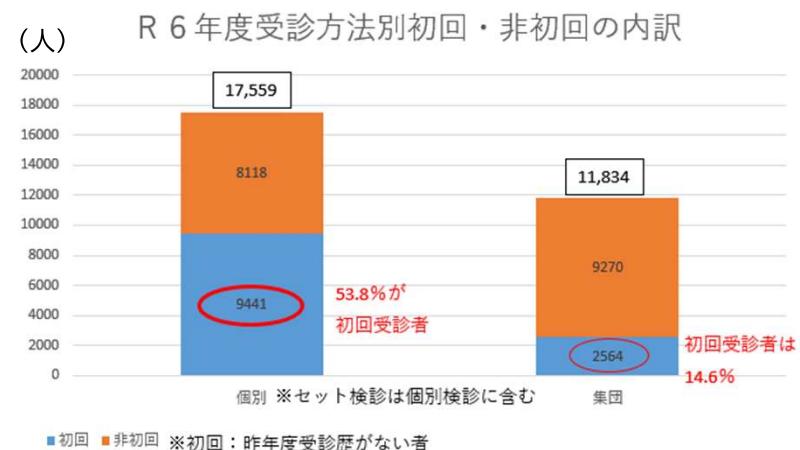
#### 令和5年2月～個別検診開始

- 個別検診の受診が伸びたことで、肺がん検診全体の受診者数増につながっている。
- セット検診の受診者数は増加傾向にあるが、集団検診の受診者数は減少傾向。
- 受診方法(個別検診・集団検診)毎に受診者を分析すると、個別検診では初回受診者が半数以上おり、これまで市の検診を受診していなかった新規の方の受診につなげることができた。

#### 成果

肺がん検診受診方法別受診者数 (人)

	R5年度	R6年度
集団	12,445	11,834
セット	3,941	4,472
個別	10,346	13,087
合計	26,732	29,393



## II これまでの取組について

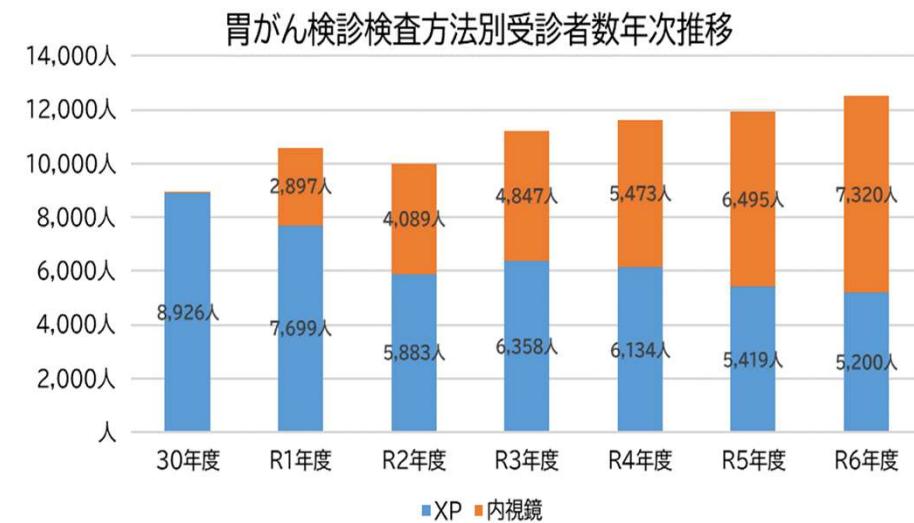
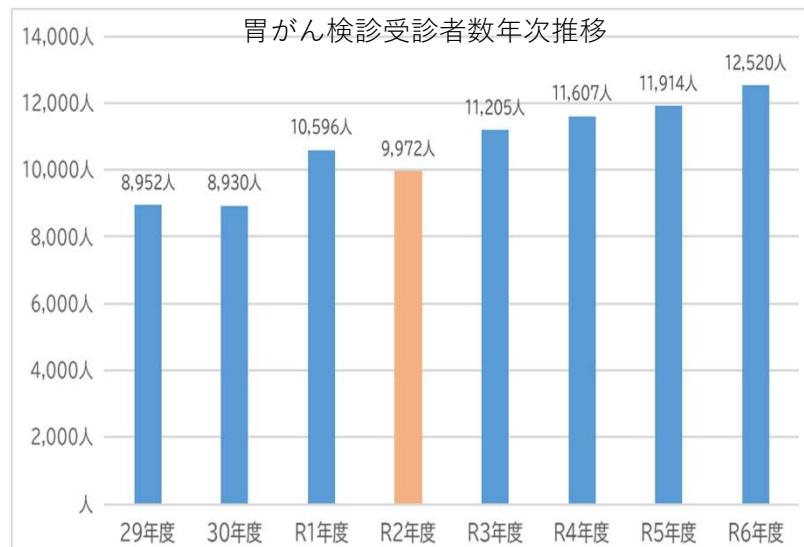
### 胃がん検診

#### これまでの取組

#### 平成30年度～胃がん検診内視鏡検査導入

- 胃内視鏡検査本格導入後の令和元年度は増加したが、令和2年度はコロナ禍の影響もあり減少し、R3年度以降は再び増加傾向に転じている。
- 内視鏡検査の受診者は増加を続けており、令和5年度以降はバリウム検査(XP)受診者数を超え、令和6年度では胃がん検診受診者全体の58.5%を占めている。

#### 成果



## II これまでの取組について

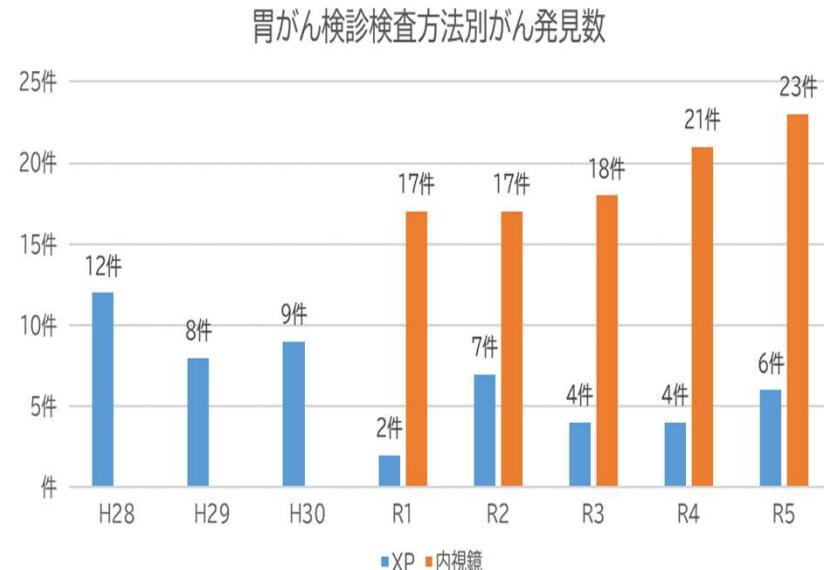
### 胃がん検診

#### これまでの取組

#### 平成30年度～胃がん検診内視鏡検査導入

- 胃がん検診のエックス線検査、内視鏡検査ごとのがんの発見者数を比較すると明らかに内視鏡検査による受診者数が多い状況にある。
- 胃がん発見者数、早期がん発見数は増加傾向であり、早期がん発見率も高い傾向にある。

#### 成果



胃がん発見率と早期がん発見率

	がん発見者数				早期がん発見者数				早期 発見率	
	内視鏡検査		胃部エックス線検査		合計	内視鏡検査		胃部エックス線検査		
	男	女	男	女		男	女	男	女	
H29	4	4	8	0	1	1	2	25.0%		
H30	0	0	6	3	9	0	0	4	2	66.7%
R1	13	4	1	1	19	10	3	0	1	73.7%
R2	10	7	6	1	24	9	4	4	1	75.0%
R3	10	8	4	0	22	8	7	2	0	77.3%
R4	13	8	3	1	25	10	7	3	1	84.0%
R5	13	10	3	3	29	9	7	1	3	69.0%

## II これまでの取組について

### 胃がん検診

#### これまでの取組

令和3年度（令和3年10月）～胃がんリスク検査

対象者：年度内に40歳～49歳になる方

検査内容：採血による血液検査

- 令和3年開始以降、受診者数は増加している。
- 陽性者の割合は、毎年15～16%程度で推移している。

#### 成果

胃がんリスク検査受診者数

	受診者数	うち陽性者数 ()内は陽性者の割合
令和4年度	684人	110人 (16.1%)
令和5年度	1,028人	173人 (16.8%)
令和6年度	1,081人	169人 (15.6%)



## II これまでの取組について

### 大腸がん検診

- ▶H29年度 大腸がん郵送検診開始
- ▶H30年度 回覧版(約3万枚)による広報(~R1まで)
- ▶R2年度 40・50・60歳の市民への個別受診勧奨(R6約29,000人)
- ▶R3年度～ 前年度に郵送検診を受診した方へキット送付  
(R3約2,800人、R4約4,000人、R5約4,500人、R6約4,700人)

これまで  
の取組

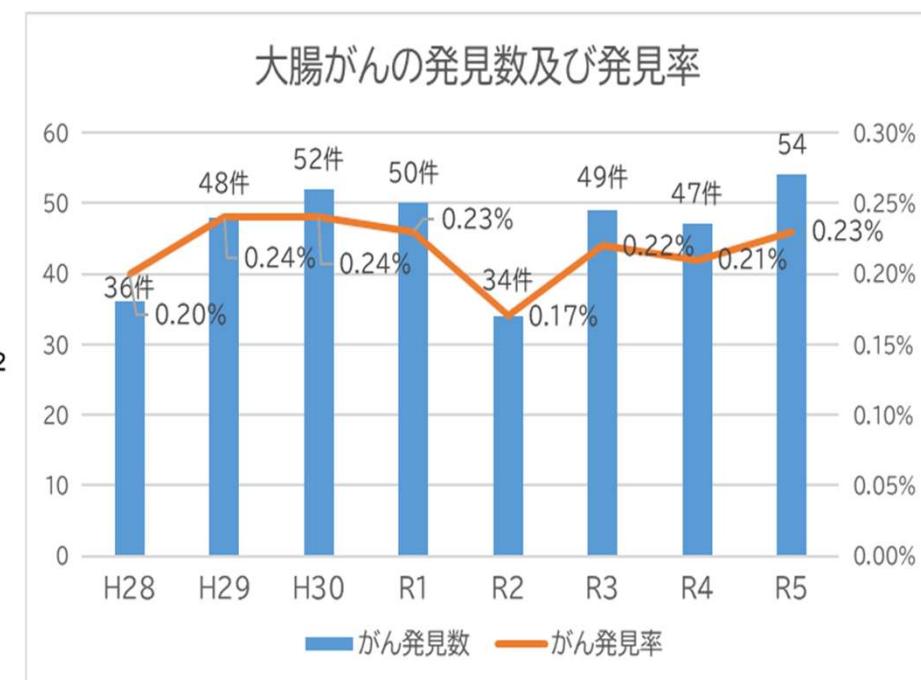
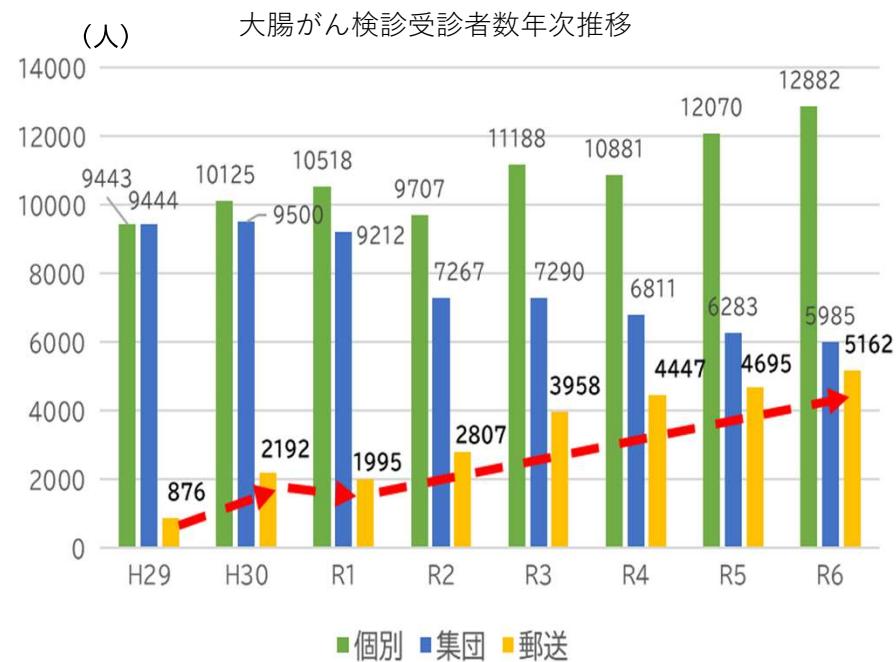


## II これまでの取組について

### 大腸がん検診

- 自宅にいながら検査できる郵送検診は、コロナ禍においても順調に増加しており、R6年度は開始年度(H29年度)の約6倍にあたる5,162名が受診した。
- 大腸がんの発見数は地震やコロナ禍の影響を受けた年を除き、毎年50件ほどで推移している。

#### 成果



## II これまでの取組について

### 子宮頸がん・乳がん検診

#### ▶個別受診の勧奨

令和6年度末（令和7年3月）

次年度乳がん検診対象者へ受診勧奨を実施

（子宮頸がん検診もセットで受診するよう案内）

対象者：40～68歳の女性 約75,000人

#### ▶未受診者への再勧奨と全対象者への個別受診勧奨

令和7年度（令和7年9月）

未受診者を含む全対象者に個別勧奨し、再度受診を促す

対象者：40～79歳の市民 約380,000人

※その他、20～38歳までの偶数年齢と21歳の女性 約41,000人

これまで  
の取組

#### ▶乳がんセルフチェックの普及

令和3年度～乳がん検診の受診者には、医療機関においてセルフチェックの動画放映、リーフレットの配布を行い、セルフチェックの啓発を行っている。

#### ▶子宮頸がん検診動画について

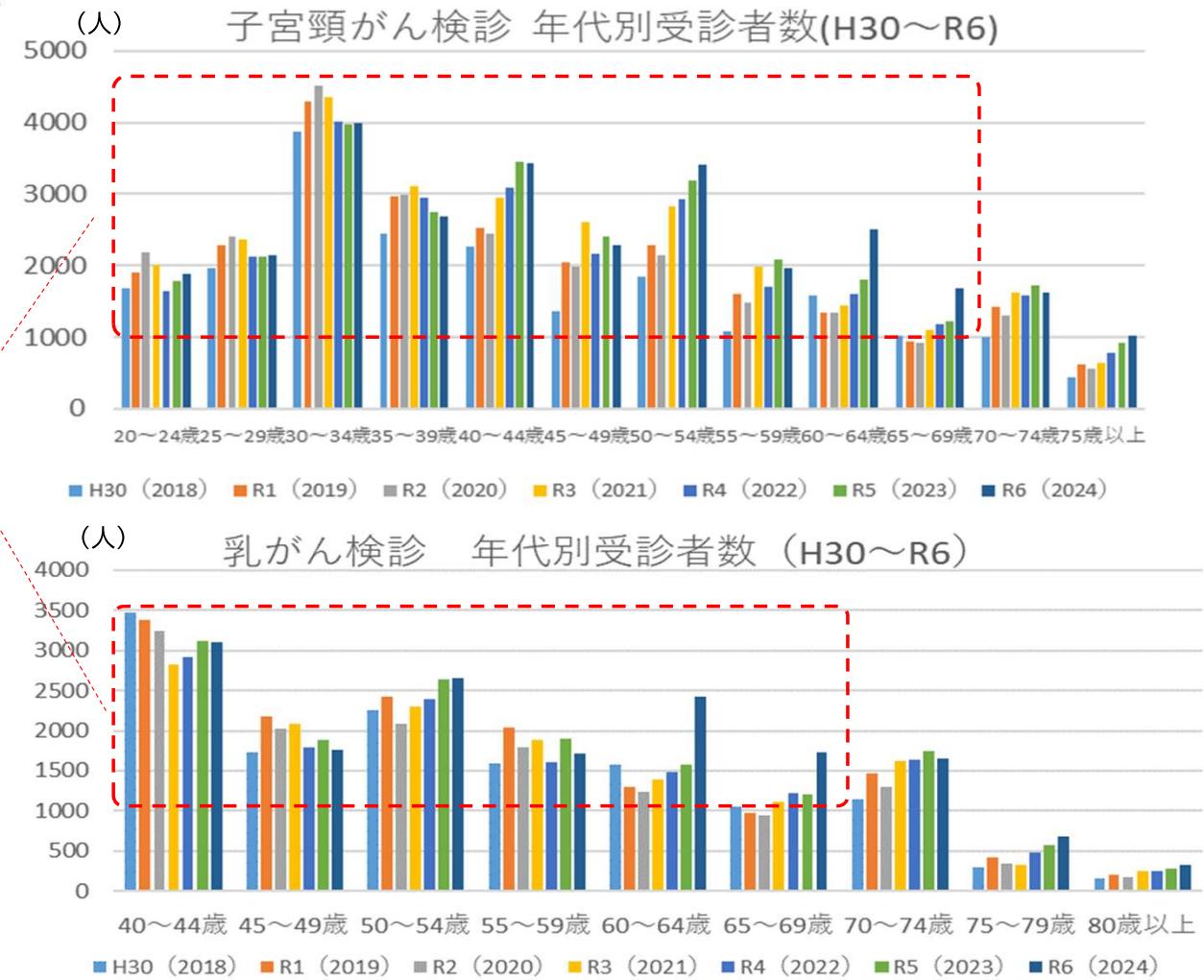
中外製薬株式会社と熊本市がん対策企業等連携協定に基づき、子宮頸がんについて専門医の先生方が分かりやすく解説する動画を作成し、市ホームページやLINE等で周知している。

## II これまでの取組について

# 子宮頸がん・乳がん検診

### 成果

ハイリスク者への個別勧奨を行った対象年齢階層では、受診者層が増加しており、受診勧奨の効果がわかる。



## II 今後の取組について（令和7年度）

### がん検診経費 予算額 650,534千円

○国の指針に基づく5がん検診を継続実施することに加え、新たに本市のがん検診の一環として、全大腸内視鏡検査を医療機関で**無償実施(全国初)** ※本事業の詳細は報告1で説明  
 ○本市として初めて、5がん検診の全対象者(79歳以下)への個別受診勧奨を9月初旬に実施(下記は勧奨現物見本)

**巡回検診の流れ**

1 受診場所・受診日を選ぶ 毎月の市政だよりをご確認ください

2 受診 予約不要: 当日直接会場へ

持ってくるもの

- 検診料(自己負担金)
- 身分証明書(住所・氏名・生年月日を確認できるもの)

巡回検診では以下の検診が受けられます

肺がん検診 胃がん検診(X線検査) 大腸がん検診

**がん検診についてのよくあるご質問**

Q がん検診は、対象年齢であれば誰でも受診できますか？

A 本市のがん検診は、市内に住民登録がある対象年齢の方であれば受診できます。ただし、職場で同様の検診を受ける機会があれば、職場検診を受診してください。また、検査部位の異常等で治療中、経過観察中の方や自覚症状のある方は保険診療対応となる場合があります。

Q がん検診の受診券が届かないですか…

A がん検診では受診券はありません。市内の医療機関で受診する場合(個別検診の場合)は、予約時または受診時に「熊本市のがん検診」と伝えていただくと受診できます。

Q 自己負担金が無料になる場合はありますか？

A 70歳以上の方、市民税非課税世帯の方、生活保護受給世帯の方は、一定の証明書の提示で自己負担金が免除されます。

自己負担金が免除になる方 必要な証明書

70歳以上の方 (令和8年3月31日時点)

身分証明書(生年月日を確認できるもの)

以下のいずれか、医療機関で検査料金が免除が必要です。

- ・市長登録(所有・隸属)登録書(個人分)
- ・市民税非課税世帯登録書(主たる生計者の個人分)
- ・介護保険料免除登録証、介護保険料納入書(免込式)、介護保険料納入通知書、介護保険料免除登録証
- ・市長登録(所有・隸属)登録書(70歳以上の方へ毎年6月に発行されます)
- ・生活保護受給世帯の方

受診料で  
40ポイントGET

アプリについて 詳しくはこちる 熊本健康アプリ QRコード モトピアントップ

**がん検診の種類と金額**

**胃がん検診**

対象者	・年内に50歳以上の 既往年齢になる方 (2年に一度対象)	・年内に 40歳以上になる方 (毎年度対象)
検査内容	胃内視鏡検査 胃カメラによる検査	胃部エックス線検査 パリウムを飲み、胃部のエックス線撮影
検査方法と 料金	・個別検診 3,000円 ・巡回検診 1,000円	・巡回検診 1,000円

**肺がん(結核)検診**

対象者	・年内に 40歳以上になる方 (毎年度対象)
検査内容	胸部エックス線検査
検査方法と 料金	・個別検診 500円 ・巡回検診 64歳以下 300円 65歳以上 200円

**大腸がん検診**

対象者	・年内に 40歳以上になる方 (毎年度対象)
検査内容	便潜血検査
検査方法と 料金	・個別検診 500円 ・巡回検診 300円

**乳がん検診**

対象者	・年内に 40歳以上になる方 (毎年度対象)
検査内容	マンモグラフィ (乳房エックス線検査)
検査方法と 料金	・個別検診 1,500円 ・巡回検診 1,100円

**子宮頸がん検診**

対象者	・年内に 20歳以上の 既往年齢になる女性 (2年に一度対象)
検査内容	子宮頸による診察(内視) 鏡検診
検査方法と 料金	・個別検診 1,200円

**※熊本市の方で、巡回検査で受診ができない場合です。なお、がん検診の対象年齢とは令和8年(2026年)3月31日時点の年齢です。  
「3月31日時点の年齢」とは「4月1日までの年齢」です。対象年齢が変更になりました(変更前:4月1日~翌年3月31日)。  
今後7年で限り、4月1日以降の方は年齢年齢年齢に跨らず受診可能です。ぜひお参りください。**

**40歳～49歳の方へ  
胃がんリスク検査も実施しています！**

胃がんリスク検査(※)では、ピロリ菌の有無を調べ、胃がんになる危険性を判定します。  
40歳～49歳の一部市民が対象です。  
【自己負担 700円】  
がんを防ぐ手段は、検診です。詳しくはこちるの熊本市ホームページをご覧ください。→

**55歳～59歳の方へ  
全大腸内視鏡検査を開始します！**

55歳～59歳の一部市民を対象に、10月1日から全大腸内視鏡検査を無料で実施します。  
40歳～49歳の一部市民が対象です。  
【自己負担 700円】  
がんを防ぐ手段は、検診です。詳しくはこちるの熊本市ホームページをご覧ください。→

**40・50・60・70歳の方は  
節目年齢歯科健診も受診できます！**

受診は令和8年3月31日までOK！

気づかないうちに進行している「歯周病」あなたは大丈夫？

今年度 20・30・40・50・60・70歳を越える方は、節目年齢歯科健診を受けることが出来ます。

【自己負担金 400円】

詳しくはこちる

**料金後納 郵便**  
郵便区内特別

**今年度、40歳～79歳を迎える皆さん**

胃がん 肺がん 乳がん 子宮頸がん 大腸がん

**がん検診、いつ受けましたか？**

早期のがんは  
ご自分ではまず気付かせません。

早期発見するためには定期的に検診を受けることが大切です。

**がん検診は、主に2つの検診方法があります。**

下記の特徴を読んであなたに合った検診方法を選んでください。

**個別検診**

- ・医療機関や受診日を決めて受けられる
- ・胃がん検診は内視鏡検査のみ
- ・(医療機関での検診)

**巡回検診**

- ・地域を巡回する検診車で受けられる
- ・胃がん検診はX線検査のみ
- ・(検診車での検診)

※集団検診もあります。詳しくは健康づくり推進課にお尋ねください。

**お問い合わせ** 096-334-1500  
【専門的問合せ】  
096-328-2145  
【健康づくり推進課】  
〒860-8601 熊本県熊本市中央区手取本町1番1号  
こちらから開封してください▶

**発行** 熊本県役所 健康づくり推進課

## II 今後の取組について

### 受診率の更なる向上に向けて

- 令和7年度については、5がん検診全体の受診率の向上をめざして、個別勧奨の拡充(79歳以下の全対象者送付)に取り組んでいる。
- また、全大腸内視鏡検査の無償実施というインパクトのある取組を契機に、がん検診全体の受診率向上を目指す。
- がん検診の受診率を向上させ、市民の命を守ることにつなげることを目的として、今後も取組を推進してまいる。